

テクニカル レポート

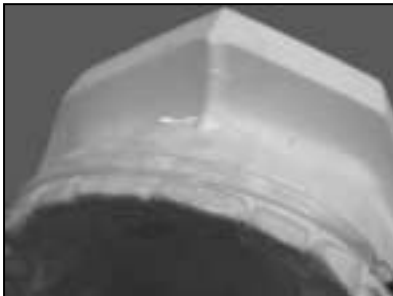
Q.C.M.リテーナワイヤの作成方法



Q.C.M.リテーナワイヤは透明で目立たないので審美ブラケットやリンガルブラケットによる治療後の保定装置として最適ですが、作成にあたってはいくつかのポイントを押さえる必要があります。そこでこのたび、作成手順、ドライヤの選定、ドライヤを固定する方法、についてまとめてみました。

作成手順

Q.C.M.リテーナワイヤの作成につきましては色々工夫をされていると思いますが、次の手順をお勧めします。



1. 正中マークを模型に合わせて、セロハンテープなどで仮固定します。



2. プラスチック部に熱を与えて、模型にのアーチ形状に合わせます(まだ個々の歯面には圧着しません)



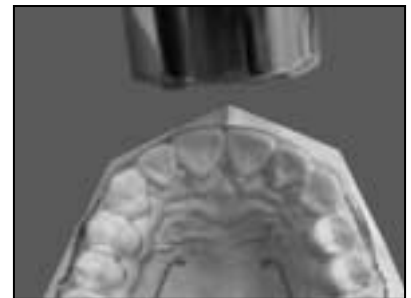
3. 金属部から必要な長さを切断し、クラスプを作成します。



4. クラスプだけを模型に固定し、レジン床を作成します(こうすることでプラスチック部とレジン液の接触が避けられます)。



5. Q.C.M.リテーナワイヤとクラスプをろう着します(この際、粘土などを使用してレジン床に熱が伝わらないようにします)。



6. プラスチック部に再度熱を充分与えて軟化させ、指や角の丸いインスツルメント等で圧接して歯面や歯間部に沿わせます。

ドライヤの選定

Q.C.M.リテーナワイヤのプラスチック部を歯面に沿わせる方法としては、家庭用ヘアドライヤの熱風を利用することをお奨めしておりますが、パワーが弱いとなかなか柔らかくなりません。大きな熱量を得るためには厚紙で送風口を少し塞ぐ方法がありますが、塞ぎすぎたり長時間連続使用するとヒューズが切れてしまうことがありますので注意が必要です。お奨めできるドライヤは右の通りです。



L字型ドライヤ

(折りたたみ式で、使用時にL字型になるタイプ)

1,200W以上で、送風口のできるだけ小さいもの

例) 三洋電機(株) "HAIR DRIER it's"
品番: HD-PT 4



アタッチメント式ドライヤ

(クルクルカーラーなどの、先端部を交換できるタイプ)

800W以上のもの

例) 小泉成器(株) "スピードプロ-800Wカーリング"
品番: KHC-0860

ドライヤを固定して操作する方法

スタンド等にドライヤを固定することにより両手が自由に使えるようになります。さらにフットスイッチを組み込めば足でスイッチを操作できるので作業がより楽になります。



1. 理化学実験用器具のスタンドと両開きクランプを用意します。



2. スタンドと両開きクランプを組み立てます。



3. ドライヤをスタンドに固定します。



4. 両手が自由に使え、作業が楽になります。

お手入れ方法

- ・毎日リテーナーを外して流水で洗い流します。その際に汚れが付着している場合は指でこするだけで汚れは取れます。
- ・汚れがひどいときの洗浄方法
リテーナ洗浄剤、入れ歯洗浄剤の使用をおすすめします。洗浄後は柔らかい布、ガーゼ等で拭き取ります。
- ・尚、下記の洗浄方法は絶対にしないで下さい。
 - * 熱湯や洗剤で洗浄すること プラスチック部が変形したり、透明度が低下する場合があります。
 - * アルコールで拭くこと 細かいヒビ割れがスジ状に入り、汚れが付着して透明度が低下します。
 - * 歯ブラシなどでこすること 細かいスレキズが入り、汚れが付着して透明度が低下します。